

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス豊見城教室3号館		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日	～	令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日	～	令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 2月 1日	～	令和8年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	丁寧で質の高い訪問支援であること。	児童の特性を踏まえ、訪問支援の経験が豊富な訪問支援員、保育士、作業療法士が専門的視点に基づいた支援を実施している。訪問ごとに詳細な記録を作成し、必要に応じて数値化・グラフ化を行いながら、保護者の意向、具体的な支援内容、訪問前後の行動変容等を明確に記載している。	支援の質向上を目的に、事業所内での事例検討や複数担当による支援の振り返りを継続して実施する。また、訪問支援に関する研修への参加を推奨し、他事業所との情報交換や事例検討を通じた学びの機会への参加を促進する。
2	関係機関との連携と情報共有に努めていること。	訪問後すぐに職員間で情報共有を行い、細かな点まで確認できるようにしている。 また、病院や学校、学童などの関係機関と定期的に話し合いの機会を設け、要請があれば参加できる体制を整えている。参加が難しい場合には報告書を通じて情報共有を行っている。	より丁寧に分かりやすい情報共有ができるよう、ロールプレイの機会を増やし、職員の対応力向上を図る。また、送迎時などの機会を活用して担当者との聞き取りの場を広げることを検討する。さらに、公式LINEなどの活用により、より円滑な情報共有方法を模索していく。
3	保護者様への情報共有を密に行っていること。	訪問後には報告書を通してその日の様子をお伝えし、必要に応じて公式LINEやお電話、対面でもご説明している。 支援開始前にはアセスメントシートを用いて丁寧に話を伺い、児童の特性や困りごと、学校で気になっている点などを把握したうえで支援につなげている。	訪問の報告だけでなく、ご家族の参考になるペアレントトレーニングなどの研修情報もお伝えしていく。 また、訪問後すぐに報告できる体制を整え、ご家庭の様子もお聞きしながら、よりよい訪問支援につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援を行う職員の数で十分でない場合がある。	訪問支援に必要な専門知識・技術の習得には時間を要する側面がある。加えて、時期により訪問支援対象児童数が増加する傾向がみられる。 その中で、訪問支援の目標設定、終了時期の見直し、支援継続の妥当性について検討する機会は定期的に設けている。	訪問支援を担うことのできる人材の育成を重点的に推進する。 併せて、訪問支援の必要性について保護者および関係機関と協議・情報共有を行い、段階的な終了を見据えた支援を実施していく。
2	学校の先生との情報共有が十分でない場合がある。	訪問報告が特定の担任に限定される場面があり、窓口となる職員へのきめ細かな情報共有や負担軽減への配慮に課題がある。 今後は、より丁寧な情報連携と負担を考慮した関わり方を検討していく。	交流級・支援級に関するすべての教員に情報が行き届くよう配慮する。各担任への報告や要望の聞き取りを丁寧にを行い、必要に応じて話し合いの場を設けるなど、より円滑な連携体制の構築を目指す。
3	家族に対する支援が十分でない場合がある。	家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）を担うことのできる職員が少数にとどまっている。 併せて、当該分野に関する研修情報の収集・周知体制についても改善の余地がある。	家族支援プログラムに関する研修参加を積極的に促し、学んだ内容を事業所内で共有できる場を設ける。 また、関連情報の収集に務め、公式LINEやブログを通じた情報発信を増やしていく。